

1 開会

事務局：定刻となりましたので、ただ今から、平成30年度第2回京田辺市子ども・子育て会議を開催いたします。

2 会長あいさつ

会長：会議の開会にあたり、あいさつを行った。

3 議題

(1) 京田辺市子ども・子育て支援事業計画における「教育・保育」及び「地域子ども・子育て支援事業」等の平成29年度の実施状況及び今後の方向性と確保方策について

説明員：資料3に基づき説明をした。

委員：資料4ページの幼稚園。「5歳児接続カリキュラム」とあるが、具体的な内容を教えて欲しい。

説明員：昨年度に策定した。小学校は4月から実施。幼稚園・保育所は9月からスタートした。6月に合同の研修会を開催している。10月に今までの状況等の検証として、研修会の開催を予定している。

委員：小学校と幼稚園・保育所との連携ということで、まず自分たちが保育・教育をどのようにしていくかということを理解していくことから始め、小学校と交流を持っている。

三山木幼稚園では8月に三山木小学校で連携を行った。5歳児の担任だけではなくて、他の歳児からの教育・保育を積み上げていることが大事。今までしてきたことを、更に小学校につなげていく。

小学校との連携は交流シートを活用して行っている。

会長：何か発見はあったか。

委員：小学校に上がったときに、この子どもたちはどういうことを学んでいくのだろうか。そうすれば幼稚園では何が必要となるのか。自分たちの保育を振り返ることを感じている。

委員：保育園は時間的な制約がない分、小学校との連携事業は合わせやすい。

大住小学校に移動図書館が来たので誘ってもらった。小学生は図書館の場所などはわかっているが、保育園児は小学校を知らない。も

う少ししていねいな話しかけが必要かと思った。教えるのと一緒に学ぶのと違いなのかなと。

小学校の先生は話すことは、あくまでも1年生に対してで、保育園児向けへの話しではなかった。そこら辺がうまくできたら。

委員：資料8ページのショートステイ事業。実績人数が5人から年度途中で14人と大幅に増えているが。理由は。

説明員：特に理由がある訳ではない。虐待事案で利用することもある。

委員：同じ方が使っておられるのか。徐々に増えつつあるのか。

説明員：同じ方が使われることはある。新たな方が増えているのではないか。

会長：子育てにしんどい方が徐々に増えているということか。

説明員：保健師からの報告によると「増えている」と聞いている。

委員：資料12ページの病児・病後児保育事業。企業主導型の病児保育事業に移行されたが、どのような違いがあるのか。変更点は。

説明員：田辺中央病院やすらぎ保育園が、同志社山手地区に移転されたタイミングで企業主導型保育事業に移行された。運営内容は今までと変わらない。平成29年度までは市の委託事業だったが、平成30年度からは国から運営費が支出されることになった。

委員：資料9ページの地域子育て支援拠点事業。北部地区での整備検討と書かれているが、方向性は決まっているのか。

説明員：新たな場所はまだ決まっていない。検討中。ニーズは拾っていく。

会長：保育所の待機児童の見通しは。

説明員：年度途中はなかなか解消には至っていないが、年度当初は来年度も「ゼロ」で迎えられることを目指す。

会長：保育士の確保は。

説明員：大丈夫です。

委員：松井山手駅前のパステルキッズが閉園され、松井ヶ丘保育園に統合されると聞いた。今でも本園は子どもでいっぱい。施設を広げられるとかしないのか。また、認定こども園になるとのことと、うまくフィットできているのか。

説明員：松井ヶ丘保育園は園舎増築工事を行っており、来年3月に完成すれば、パステルキッズは移転・吸収することになっている。平行し

て、認定こども園へ移行する予定。

委員：こんにちは赤ちゃん事業の「エンジンバラ産後うつ病質問票」だが、気づきが早くなったとか、効果はいかがか。

説明員：早期の段階で把握ができ、虐待の未然防止につながり効果がでていいる。平成29年度実績は対象者が462人。そのうち、ハイリスクと評価された方が45人だった。

会長：その後のケアは。定期的な訪問するのか。

説明員：保健師や助産師が訪問をする。その方にとって一番いい対応をとっていく。

委員：ファミリー・サポート・センター事業で、おねがい会員は毎年増えていっているが、まかせて会員の増加数が少ない。

委託事業なので、市として現状をしっかりと把握できているのか。たくさんの方に利用して欲しい。もっと、広めるための努力を。

説明員：まかせて会員が増えないことは、市も事務局も課題と考えている。制度の浸透も考えたい。

委員：まかせて会員はシルバー世代が多いので、もっと増やす策を考えて欲しい。

会長：大学生との連携も。大学生は子育てをした経験がないが次世代の子育てにあたる。包括的に考えて欲しい。

委員：ファミサポを利用するニーズがあまりない。

委員：幼稚園のお迎えに使われようとされたが、早く出産をされたため利用はされなかった。以前は、お迎えで使われた実績はある。幼稚園での制度PRが必要と感じる。

委員：資料17ページの養育支援訪問事業だが、平成30年度の速報値が少ない。後半に増えていくのか。

説明員：年度末には例年の数になると思われる。

(2) 京田辺市子ども・子育て支援事業計画における重点事業の平成29年度の実績について

説明員：資料4・5・6・7に基づき説明をした。

委員：民生児童委員も「こんにちは赤ちゃん事業」を行っている。市より2か月遅れで訪問させていただいている。先に行かれる市の保健

師がこの後、民生児童委員が赤ちゃん訪問でお伺いする旨の一言をかけておいて欲しい。

他の自治体では電話番号を教えてもらっていて、電話をされてから訪問をしている。京田辺では電話番号までの提供がない。

一声、かけておいていただければお互い安心して訪問や受け入れやすい。

説明員：保健師が訪問時に一声をかけるように伝える。地域で孤立していないよう、みんなが見守っている意識を保護者の方にも持ってもらう必要がある。

委員：産後うつで虐待の一番多い時期は、産後1か月未満。京都府下の自治体でも産後2週間と1か月健診がいるだろうと、公費で実施している。京田辺市での導入の見通しは。

説明員：近隣の市町村の動向も含めて注視しながら、適切に導入時期を見定めていきたい。

委員：1か月検診では遅い。それまでが空白。危ない。受診券があるから医療機関は実施するのであって、なければやらない。自治体によって格差が生まれているのが現状。対面で行うのでどのような状況なのかが分かる。

委員：資料3と資料4の「妊婦健康診査費助成事業」の実績数に差がある。

説明員：数値を確認して、後日、その結果をお知らせする。

委員：「こんにちは赤ちゃん事業」は再掲事業となっているが、双方の進捗状況値が違う。どちらが正しいのか。

説明員：資料4の進捗状況の「②達成できなかった」が正しい。資料5の標記の修正をお願いします。

(3) 第2期京田辺市子ども・子育て支援事業計画の策定について

説明員：資料8・9・10・11に基づき説明をした。

説明員：市民向けのニーズ調査の設問については、次回の会議で提示させていただく予定をしている。なお、国からは、子どもの貧困、女性の社会進出等を調査に入れるよう指示がきている。

次回の会議までに設問について提案をいただきたい。

委員：発達障害について、自分の子どもの発達について理解ができない方が多い中で、他人の子どもの発達障害についてどれぐらい許容できるところがあるのか。発達障害自体が増えてこれから問題になってくるのではないか。

会長：子どもの発達について聞ければいいということか。

委員：どのような問題があるのかが把握できていないが、自分の子どもの子育てをする上で問題になっていないのかなど。子育てのなかで、自分の子どもは発達障害ではないけど、他人の子どもの発達障害で何か困るとか。

会長：資料10の中で問32や問34に含めることができるのかを検討すれば。

委員：特別支援教育は力を入れている。

会長：保護者の育てにくさにも繋がっていくのか。ニーズを知るのにはいいのかもしれない。

事務局：次回の会議までに、事務局へお知らせいただきましたら対応できる。次回の会議は最終案の提示ではなく、引き続き協議をできるようにしたい。

会長：問11の設問に「友人」を入れるように。

委員：就学前向けアンケートの問15と小学生向けアンケートの問14は同じ設問であるが、回答選択項目が違う。小学生向けに「夫婦で楽しむ時間がない」「住居が狭い」が欠落している。小学生の方がこの件は課題になるのでは。ご検討を。

事務局：点検をしていきたい。

委員：用語の説明が必要。説明することで事業のPRにもつながる。

会長：事業のPRを含め検討すれば。

(4) 次年度に向けた新たな子育て支援に係る事業等について

説明員：例年、この時期の子ども・子育て会議で提案をさせていただいている。まもなく新年度予算の編成時期を迎える。事業化ができるかどうかは別として、委員のみなさんから事業の提案をいただきたい。次回、11月の会議に再度、提案をさせていただく。

(5) その他

特になし

4 その他

事務局：次回の会議は、11月19日（月）午後2時から、市保健センターでの開催を予定している。

5 閉会

事務局：本日の議事はすべて終了しました。これで、平成30年度第2回京田辺市子ども・子育て会議を閉会します。